アジア教育友好協会の活動をマンスリーにお届けします。

発行日：平成22年2月2日　第24号

AEFA通信

NPO法人　アジア教育友好協会
〒105-0014　東京都港区芝3-3-10 芝園ｵｰｼｬﾝﾋﾞﾙ8F
電話 03(6426)0720　/FAX 03(6426)0721
http://blog.canpan.info/aefa/

議員の会建設校「タイ　ファイコンともだち小学校」安倍会長はじめ議員の方々を迎え、12/15開校式！

ファイコンともだち小学校

「議員の会」銘板を贈呈

「アジアの子どもたちに学校をつくる議員の会」様の第9校目建設校となる「ファイコンともだち小学校」(タイ北部チェンマイ県オムコイ郡ファイコン村)が完成、開校式が2009/12/15に行われました。

「議員の会」安倍晋三会長、遠藤利明会長代行、山谷えり子参院議員、チェンマイ総領事横田順子氏ほか一行が列席されました。

ファイコンには、チェンマイから車で4時間ほどかかります。タイの人さえ「そんな遠いところへ行くんですか！？」と驚くほどの僻村です。タイ最高峰ドイインタノン山を望みながら、チェンマイの街からから山へ山へと登ってゆきます。後続車両が見えなくなるほどの砂埃、悪路に激しく揺られていたみなさんでしたが、「車に長く乗るのは慣れていますから！」(山谷先生談)と、皆さん終始笑顔でした。

安倍会長・横田総領事からの祝辞に続き、日本から持参した心づくしの文房具やTシャツなどの記念品が贈呈されます。子どもたちからも、カレン族手織りの布製バッグが贈られました。

まさに手作りの開校式。日本からのゲストをもてなすために、供されたコーヒーは、ファイコン村産。子どもたちが豆を一粒一粒手摘みし、乾かしました。先生方は前日深夜までかかって学校を飾り付けたり、司会原稿を清書したりして準備。ゲストたちをびっくりさせたタイ-日本友情の庭園も、この日の為に作られました。子どもたちも、草花や土をリレー方式で運び上げました。

遠藤議員は、「地道な活動を積み上げていくことが、私たちの幸せな未来に大切。」との思いから、会の中心となって活動されています。

同議員の子女が、建設中のファイコンを訪問、子どもたちとサッカーや将棋をして交流。ふだんはお米にインスタントラーメンを混ぜてうすくのばしたような食事をしている子どもたちのために、同会からのご支援で食料を買込んで運び込み、ランチを提供したこともあります。

校庭から望む山々

式典の後には、子どもたちと交流綱引き大会も行われました！山の尾根の馬の背のように狭い敷地を活かして作られたファイコンの運動場。球技をするときは、ボールが転がり落ちないようネットを四方にはりめぐらせます。でも、綱引きなら大丈夫。先生方もスーツを着替え、子どもたちと一緒に汗を流します！山の背に、歓声と笑顔がはじける、大綱引き大会でした。

また、今回のご支援がきっかけとなり、タイ政府から『中学校校舎』の支援が決まり、更に学習環境が整いました。

しかし、冷害で凍死者も出るような山岳地帯の寮で、マットも毛布も足りない現状を視察した先生方は、更に追加支援を考えてくださっています。

寮の子どもたち

AEFAでは、今後も、現地パートナーNGOラックスタイ財団と共に、ファイコンを見守ってゆきます。

タゴはんまだかな・・？食器を手に

「タイ　ナンプア小学校」 完成しました！
大阪コミュニティ財団様･夢の貯金箱様

プア町は中心部から36km、勾配の急な山々の中にあり、多種の山岳少数民族（モン族、ミェン族、シン族等）が居住しています。政治的･歴史的背景から、タイ中心部の発展から取り残され、水道や道路などインフラが未だ行き届かず、国内で最も貧しい地域の1つです。

急な山道。雨季には道路工作しながら前進。

ナンプア小学校の粗末な2教室の校舎を、「大阪コミュニティ財団」様、「夢の貯金箱」様、長谷部晃様はじめ皆様のご支援で、3教室の新校舎に建て替えることができました。

雨季にはアクセスが途絶するような山間部の離村ですが、工事は遅延なく進捗。無事、新校舎が完成しました。

旧校舎　全景

学校は、村人全体を対象とした『地域学習センター』として、農業や環境の学習にも使用されます。

また、これまでは小学校卒業後、10km以上も離れた中学校に通うしかなかった同地域の子どもたち。ナンプアに中学課程の新設も検討されており、更に学習環境が整います。

三重県津市辰水小学校との交流を記念して、タイと日本の友情を記念したプレートと、辰水からの交流作品も掲示されています。

今後も、AEFAとラックスタイ財団は、学校と地域社会とともに、地域に根ざした環境、教育プロジェクトを実施してゆきます。

3教室の新校舎　　4-6年生が学んでいます

タイ　メーマロー小学校を訪問しました！
アシスタント先生　ピクン先生はこんな人・・・・・

東京都瑞穂第一小 の交流校であるメーマロー小を訪問しました。

学校に住み込み、子どもたちの世話をしながら教えているアシスタント先生ピクン先生は、地元のメーナジョーン地区出身。主に幼稚園年長と、1年生を担任。他にも、一般事務や、児童への衛生指導、朝礼の取り仕切り（タイの学校では一般的に毎日朝礼を行う）、給食作り、寮生の世話などの業務があり、忙しい毎日です。週末は、チェンマイの大学で教育を専攻、教員免許を取るべく頑張っています。

教壇のピクン先生

瑞穂第一小では、4年生が図工の時間に日本のことを知らせる作品を作っているとのことでした。

「絵の交換ノートが出来たら・・」と、同小猿田校長先生の夢はふくらんでいます。

ピクン先生
手作りの教材

ピクン先生はアシスタント先生なので、お給料が出ません。

2009年度、『地球の歩き方　30周年記念企画』として、1年間分の給与のご支援を頂きました。メーマローの様子は、下記サイトよりご覧頂けます。
http://www.arukikata.co.jp/30th/aefathai/170101.html

ピクン先生からのメッセージ

「私はタイ人ですが、山岳少数民族の子どもたちのための教え方･勉強の仕方を工夫しています。カレン族の子どもたちとは、コミュニケーションが難しいこともありますが、そんなときはお互いに言葉を教えあっています。子どもたちには、“自立できる子ども”になってほしい。タイ語をしっかり勉強させて、成長してからタイ語をしっかりしゃべれるようになって、タイの社会でやっていけるよう、自分の意見を話せるようにしたい。　学校生活で特に大変なことはありません。子どもたちはかわいいですし、同僚の先生方も素晴らしい方ばかりです。ただ、夫や娘と離れて暮らしていることが、さびしいと感じる時があります。　将来は、大学を卒業し先生の資格を取り、国家公務員になりたいです。ここで、山岳少数民族の子供のための教え方を学んだので、この経験を活かして今後もこのような地域で働きたいと考えています。」

2005年度建設校
サムソップ小学校＆ソプワック小学校訪問

サムソップ小学校

現在は、幼稚園から小学校6年生まで70名の子どもが学んでいる。中学校は、生徒数が20人に満たなくなったため、国の基準により閉鎖されてしまった。そのため、現在は村の教育センターで勉強し、中卒の資格をとるようにしている。

山を背に　サムソップ

先生と児童たち

先生方のインタビュー：
「学習環境が整い、子供たちの勉強に対しての心構え･姿勢が向上しました。目に見える形で学校の設備がよくなり、教員もふえたことで、保護者の教育に対する考えや意識も高くなりました。これまでは、学校に対する保護者の関心も低く、欠席が多かったが、今では畑仕事があっても、学校へ通わせるようになりました。」

山岳地帯の学校でも、平地の子どもたちに負けないよう、教科だけでなくスポーツや学校活動にも力を入れており、表彰されている。AEFAプロジェクトの成果は、子供の勉強への意欲、親の教育への意識変化を促している。地域でもいい学校と評判で、今後生徒が増える可能性が大きい。

幼稚園児の粘土作品

きちんと整った図書室

ソップワック小学校

大変熱心な先生方による良い学校運営から、子どもたちも生き生きと学校生活を送っている。王室プロジェクトによる表彰や、空軍から毛布支援を受けるなど、学校の努力が評価されている。その評判を聞き、親が子どもたちをこの学校に通わせたいと、更に生徒が集まっている状況。多くの村々から子どもたちが通うようになっており、現在は70名の小学生（うち60名が寮生）が学んでいる。

子どもたちも、先生に協力し、勉学やスポーツだけでなく、学校菜園活動や、ボランティアに訪れる大学生の食事のお世話など、頑張っている。

今後も児童数が増えることから、現在の寮の前に2部屋の寮を追加新設する予定になっている。

何も無かったところに、
立派な畑ができました！

AEFAプロジェクトで学校が整備され、学校菜園･養豚などの活動（自立のための農業プロジェクト）も子どもたちが中心となり頑張っている。菜の花や青梗菜の畑が整備され、豚も増えるなど、目を見張るほどの変化だが、それでも寮の食事は足りない状況にある。

ありがとうの輪を拡げたい・・
「サンキュー夢スクール基金」でベトナムに学校を

サンキューホールディングス様は、「思いやりのある子が巣立つ家」をテーマに、お客様の家造りを通して、アジアの学校建設等教育環境整備のボランティア活動に取り組まれています。このたび、同基金より第１校目の建設校として、ベトナム中部　ホアバック小学校ジアンビ分校へのご支援が決定しました！

ホアバック村は、少数民族カトゥ族が住む、山と川に囲まれた小さな村です。
アジアの子どもたちに、「夢と希望」を届けます！

新校舎建設予定地

民族の建物　ホーンハウス

AEFAからのお知らせ　～　速報！！

AEFAオリジナル　ベトナム教材
「チュックくんの一日」が、外務省主催「グローバル教育コンクール2009」で優秀賞を受賞！
2/7、受賞式が大阪で行われます。

伝えあおう　ラオスの知恵　日本の知恵
「二小（ふたしょう）フェスティバル」開催

12/19、横浜市立二俣川小で「二小フェスティバル」が開催されました。6年生は、ラオスのカムサムバド小との交流を通して学びを深め、テーマ毎にグループに分かれて、体験型の発表を行いました。

「モノ作りグループ」は、竹を使った遊び道具で、たくさんの来場者にその楽しさを味わってもらいました。竹の手作りおもちゃは、大人気！弓矢や笛など、色々なものを作りました。

「衣グループ」は染色の体験や、織る体験、ラオスのファッションショーなどを体験してもらいました。たまねぎ染めなどの染色、”ラオとスイーのおしゃれ対決人形劇”など、子どもたちならではのアイディアがいっぱい！！

「食のグループ」では、ナンプラーと醤油の香り体験や、ラオスと日本のお米の勉強、ラオス料理の説明などをして、問題10問を正解した人には試食（もち米･たけのこスープ）をしてもらいました。先生方がラオスの市場で購入された蒸し籠で、もち米を蒸しました。

「音楽グループ」では，ラオスのカムサムバド小の子どもたちの歓迎パーティーでの歌と踊りに刺激を受けて、自分たちの町の音楽探しからスタート。町の方たちの協力を得て「本村囃子」の演奏を，本校で初めてしました．獅子舞も笛や太鼓･鐘なども、すべて子どもたちだけでの演奏でした。地域の方から、どうしてラオスがテーマなのに本村囃子なのですか？との質問があったときには、瀬野尾校長先生が「ラオスについて学んだから，初めて日本の文化を見直すことができました．」と答えられたそうです。

「醤油や納豆などの香りも，ナンプラーと出会ってから，初めて子どもたちは意識しました．ラオスでの竹の活用の中から，身近にある竹がなんと利用しがいのある素材か、子どもたちは竹の遊び道具作りを通して、新たに発見しました．小刀や鉈の使い方も随分上手になりました。」
（小林宏先生談）

** 橘幼稚園祭 **
おかあさんたちの協力で、AEFAを応援！

11/21＆22、橘幼稚園祭～子どもの世界とすてきな仲間～が開催されました。今年も引続き、AEFAの活動を応援するチャリティ活動として、おかあさん方が中心となり、チャリティコンサートや屋台を開きました。

かぼちゃを使ったラオスのデザート「ナムワーン」と、かぼちゃ入りフォーの屋台は新しい取り組みでしたが、あまりのおいしさに初日に麺が完売する人気ぶり！「AEFAのお店」では、毎年好評のタイ少数民族の小物や「タバンくんのいちにち」絵本を販売。コンサートでは、ラオスの友だちのために、手裏剣を参加費代わりに折りました。すべて、おかあさんたちが中心となり企画から運営まで行いました。

当日の売り上げから、ラオスの小学校（または幼稚園）のボランティア先生の1年分給与支援として、ご寄付をいただきました。 橘幼稚園のみなさま、おとうさん･おかあさん、「父の会」様、「雑貨工房みらい」様、「絵と絵本の会」様、「アスタ荏田」様、どうもありがとうございました！

手作りフォーも大好評

三上園長先生（中央）と
おかあさんたち

～ 今年も“ニコニコ”のおすそ分け ～
ラオス南部山岳地帯に『民家風寮』を！

『社員がニコニコしたときに、そのおすそわけをしよう』と、募金や様々な社会貢献活動＝ニコニコ運動で集まったお金と、2年続けて本社の『ニコニコバザー』でラオス少数民族の手織り布を販売した売り上げを、近江兄弟社株式会社辻昌宏取締役が、今年も12/25、クリスマス献金にいらしてくださいました。

「ニコニコ募金」のご献金は、ラオス南部山岳地帯パチュドン小中学校の「民家風寮」建設に使わせていただきます。同校は、2005年にAEFAのプロジェクトが入って以来、子どもの数が増え、中学課程も新設され、ますます生徒が増えています。 ご支援、ありがとうございます！！

左）辻サンタさん♪

新設された中学校